

熊本大学附属図書館報

# 東光原

# 46

Kumamoto University Library Bulletin

ISSN 0917-7604

<http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/tokogen/>

November 2006

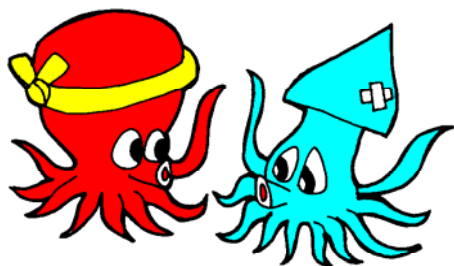
## 学術リポジトリって何だ？

イカさん、タロさんの学術リポジトリQ&A

研究成果を世界へー熊本大学韓国フォーラムー

阿蘇家文書修復完成記念 阿蘇の文化遺産展を終えて





特集：学術リポジトリって何だ？

# イカさん、タコさんの 学術リポジトリQ&A

熊本弁エディション



**1** (イカさん) 「学術リポジトリ」ちゃ、ど  
ぎゃんとね？



(タコさん) 学術リポジトリとは機関リポジ  
トリ (Institutional Repository) と呼ば  
れておるのじゃが、要するに大学等で生産され  
た学術成果・論文を公開するサーバのことじゃ  
の。大学等の研究機関で生産された様々な学術成  
果を電子的に収集・蓄積・保存して、それを学内  
外に無償でインターネット上に公開するのじゃ。  
すなわち大学等において設置される学術成果コレ  
クション、もしくは学術生産物のショーケースと  
呼べるものじゃ。



**2** (イカさん) こつで公開すつ学術成果ちゃ、  
どげなもんがあると？



(タコさん) 学術雑誌の掲載論文、紀要論文、  
博士論文、科学研究費成果報告書、会議発  
表資料、図書やその一部、講義資料等の教材等が  
考えられるな。ファイル形式はテキスト、WORD、  
HTML、PDF、PPTや動画等、たいていのものは掲  
載可能じゃな。ただ、公開後の利用や改変等も考  
えるとPDF形式にしておいた方が無難かもしれん  
な。ファイル形式の変換については、附属図書館  
に相談しても良いようじゃぞ。



**3** (イカさん) 利用者のメリットちゃ、どげ  
んとこにあつと？



(タコさん) 特に発表されていても目につき  
にくく、図書館等で保存されにくい資料  
等についてリポジトリシステムで公開するのは意

義のあることじゃ。また雑誌掲載論文についても、  
高価な契約価格を強いる電子ジャーナルの恩恵に  
あずからない研究者にとって、著者版にその多く  
は限られるとはいえ、ほぼ同一内容の研究成果を  
入手できるという福音となるものじゃ。



**4** (イカさん) 世界や日本じゃ急速にリポジ  
トリの設立が進んどるとてね。Roaster (R  
egistry of Open Access Repositories (注<sup>1</sup>))  
によつと、世界中で754 (米国200、英国79、ドイ  
ツ68、ブラジル45、カナダ32、日本19) のリポジ  
トリが登録されとるとてたいね。日本じゃ平成17  
年度に国立情報学研究所のCSI事業として19大学、  
また18年度はこれを含めた57大学に事業委託され  
とつとげな。こぎゃん急速にリポジトリの推進が  
はかるわけちゃいったい何だろか？



(タコさん) 簡単に言うと次の2つじゃ。  
① シリアルズクライシスという言葉に代  
表される学術情報流通の危機という問題。  
② それに対する研究者機関、個人および団体や  
学会によるオープンアクセスへの取組み。




**5** (イカさん) おい、そつじゃいつちよんわ  
からんばい。「シリアルズクライシス」ち  
や何のこつね？




(タコさん) 学術ジャーナルを発行している  
欧米の大手商業出版社がその価格を引き  
上げ、研究図書館が購入点数を削減せざるを得な  
くなり、さらに学術ジャーナルの価格があがると  
いう悪循環に陥ってしまったのじゃ。特にこの傾

向はSTM系（科学、技術、医学）の分野で顕著じゃぞ。日本の大学でも雑誌への支出額が増加しているにもかかわらず、購読するタイトル数は激減するという現象が起こっておる。（1980年代終わりに40,000タイトルほどあったものが2000年代には20,000タイトル程度と減ってしまつとる。）


（注2） こういう状況は研究者にとっても、自分の学術成果を発表しても、それを読んでくれる読者や機会を失ってしまい、従来の商業出版社主導の学術コミュニケーションが崩壊する危険な状況となってきたのじゃ。


 **6**（イカさん） こいに対すっ「オープンアクセス」への取組み、ちゃ何のこつね？

 （タコさん） これには2つの方法があり、実践されておる。（注3）


- ① オープンアクセスジャーナルの発行
- ② セルフアーカイビング




 **7**（イカさん） 「オープンアクセスジャーナル」から説明してはいよ。

 （タコさん） オープンアクセスジャーナルと

いうのは、掲載論文を無償で利用者に提供するものじゃ。スウェーデンのルンド大学図書館が管理するThe Directory of Open Access Journals（注4）によれば、このサイトに掲載されているオープンアクセス方式の学術ジャーナルは、現在2,300誌以上とある。（2006月10月現在）読者に無料で配信される「オープンアクセス」方式のジャーナルは学術情報流通の一角を占めてきつつあるのじゃ。しかも最近のトムソン・サイエンティフィックの調査では、引用回数では、オープンアクセス方式の学術ジャーナルのいくつかが高い引用率（インパクトファクター）を示しておる。（注5）

 **8**（イカさん） 2番目ん「セルフアーカイビング」ちゃ何ね？

 （タコさん） 上述のように、オープンアクセスジャーナルの発行や影響が高まってきたつつあるが、現在でも、商業出版社が発行する伝統的で権威のある有名な雑誌

によって学術論文は発表されることが多いのう。そこで著者自身がそれらを含めて自分の研究成果（発表論文）を、自分のホームページ上で公開することがセルフアーカイビングじゃ。ただ、学術雑誌に投稿した論文の著作権は出版社に帰属するのが一般的で、著者といえども自分の論文を自由にインターネットで発信することはできなかったのじゃが、最近では、著者に許諾する出版社が増えてきておる。

このような出版社をGreen Publisher、雑誌をGreen Journalと呼んでおる。



**9** (イカさん) Green Journalちゅ～もんも、もうちょっと詳しく教えてはいよ。



(タコさん) RoMEOプロジェクト<sup>(注6)</sup>の調査によれば、海外学術雑誌の94%がプレプリント、もしくはポストプリント、もしくはプレプリントとポストプリントの両方をセルフアーカイブすることを許諾しておる。ただし、出版社がレイアウトした出版社版をそのまま公開することは、許可されていないことが多いので、著者の手元にある最終確定原稿(著者最終版)をアーカイブすることになるのじゃ。



**10** (イカさん) 大学としてのリポジトリのメリットちやどぎゃんこっね?

(タコさん) 登録し公開することによって、Google等の検索エンジンから検索しアクセスされることとなり、可視性(Visibility)を飛躍的に高めることができるのじゃ。物理学分野では、オープンアクセスにした論文がそうでない論文の約5.6倍多く引用されたという統計結果が報告されたほどじゃ。<sup>(注7)</sup>

また、散逸しがちな電子的な知的生産物を一元的に確実に蓄積、保存して後世に責任を持って継承していくことができるという利点もあるのお。

さらに大学としても、教育研究成果を公開していくことによって、社会に対する説明責任を果たすと共に、先進的研究成果を迅速に公開することで、大学の知名度やブランドイメージを高め、知の創造と発信という大学の使命を果たすことを側面から支えることができるのじゃ。



**11** (イカさん) 個人や研究室のホームページで公開すつと、大学のリポジトリに登録すつとはどぎゃん違うと?



(タコさん) どちらの場合もインターネット

の検索エンジンで検索できるという点においては変わらないのじゃが、リポジトリに登録するにはメタデータ(そのコンテンツに関するデータ。タイトル、作成者、キーワード、抄録など)と一緒に登録するのじゃ。このメタデータをOAIPMH(Open Archives Initiative Protocol for Metadata Harvesting)<sup>(注8)</sup>という国際標準のプロトコルに準じて提供し、国立情報学研究所のJuNii<sup>(注9)</sup>やミシガン大学のOAIster<sup>(注10)</sup>などの、全国規模、世界規模のリポジトリにハーベストしてもらうことによって、ここからも他機関のリポジトリデータと一元的に検索可能となり、アクセスされる機会を増やすことができるのじゃ。



**12** (イカさん) 熊本大学学術リポジトリにや、誰が登録でくつと?



(タコさん) 熊大の構成員、もしくは構成員であった人なら可能じゃが、登録しようとするコンテンツの作成に関与した人でなければならん。また、複数の著作権者がいる場合には、自分以外の著作権者から許諾をとっておく必要があるのお。




**13** (イカさん) どぎゃんして登録すつと?



(タコさん) 二通りの方法がある。熊本大学学術リポジトリのホームページにアクセスすると、そこには上のほうに「論文の投稿・確認」というリンクがある。そこからログインするとオンラインで投稿できるのじゃ。ログインについては熊本大学統合認証を利用しているのでSOSEKI等と同じID、パスワードを利用するのじゃ。論文原稿もここからアップロードできる。他には、メール等で図書館あてに論文原稿とその論文に関する情報(タイトル、著者名、掲載誌等)を送れば図書館側でメタデータを作成して代行登録ということじゃぞ。その際はこれも様式がリポジトリ

のホームページにある「電子化のための申請書」に署名して提出するということじゃ。(注11)

#### 14 (イカさん) 熊本大学学術リポジトリに登録すつと、著作権はどげんなつと？

 (タコさん) 著作権が附属図書館に移転することはない。ただし、コンテンツを複製してリポジトリのサーバに格納すること、ネットワークを通じて不特定多数に無料で公開す

ること、保存や利用の便宜のため複製・媒体変換することを附属図書館に無償で許諾することは必要じゃ。

-----  
登録希望、ご不明な点、ご質問等があれば、附属図書館電子情報担当までお気軽にお問い合わせください。

(内線2224、denjo@lib.kumamoto-u.ac.jp)

<注>

- 1) Registry of Open Access Repositories <<http://archives.eprints.org/>>
- 2) 日本学術会議情報学研究連絡委員会学術文献情報専門委員会「電子的学術定期出版物の収集体制の確立に関する緊急の提言」2000. 6. 26 <[http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/17htm/17\\_44.html](http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/17htm/17_44.html)>
- 3) BOAI (Budapest Open Access Initiative) は、オープンアクセス実現のためにこの2つの戦略があることを明確に提示して、その後の議論に多大な影響を与えました。 <<http://www.soros.org/openaccess/read.shtml>>
- 4) DOAJ <<http://www.doaj.org/>>
- 5) Lila Guterman, "The Promise and Peril of 'Open Access'", The Chronicle of Higher Education, January 24, 2004, p.A10.
- 6) Journal Policies - Self-Archiving Policy by Journal <<http://romeo.eprints.org/>  
SHERPA/RoMEO: Publisher copyright policies & self-archiving <<http://www.sherpa.ac.uk/romeo.php?all=yes>>
- 7) Stevan Harnad, Tim Brody, "Comparing the Impact of Open Access (OA) vs. Non-OA Articles in the Same Journals", <<http://www.dlib.org/dlib/june04/harnad/06harnad.html>>
- 8) The Open Archives Initiative Protocol for Metadata Harvesting  
<<http://www.openarchives.org/OAI/openarchivesprotocol.html>>
- 9) 大学Webサイト資源検索 (JuNii) <<http://ju.nii.ac.jp/>>
- 10) OAister <<http://oaister.umdl.umich.edu/o/oaister/>>
- 11) 熊本大学学術リポジトリ投稿方法 <<http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/reposit/contribution.html>>

参考文献：

特集=学術情報リポジトリ 情報の科学と技術. 55(10) [2005]

\* このQ&Aは、「京都大学図書館機構報 静脩」43(1), 2006. 8 の「機関リポジトリ入門」を参考に作成させていただきました。

特集：学術リポジトリって何だ？

# 熊本大学学術リポジトリについて

高木 貞治

「熊本大学学術リポジトリ」は平成18年3月に試験公開を開始し、平成18年5月に運営指針を制定して、正式に運用を開始しました。

「学術リポジトリ」とは、研究者が作成した（論文や学会発表資料などの）学術研究成果物を、所属する機関のサーバーに組織的に収集・保存し、ネット上に広く公開するものです。

リポジトリに登録・公開された情報はGoogle等の検索エンジンや、Scirus、OAIster、国立情報学研究所（NII）のJuNiiなどの学術情報検索サービスにメタデータ（目録情報）がインデクシングされて、ここからアクセスできるようになります。これによって登録された学術情報のビジブリティ（可視性）が飛躍的に高まることとなります。

そういう理由から近年、海外の大学図書館を中心に設置が相次いでいます。

日本でもこの動きに追いつくべく、平成17年度から国立情報学研究所（NII）の最先端学術情報基盤（Cyber Science Infrastructure=CSI）の構築推進委託事業（以下、CSI事業という。）として、19大学がリポジトリの構築に着手しました。

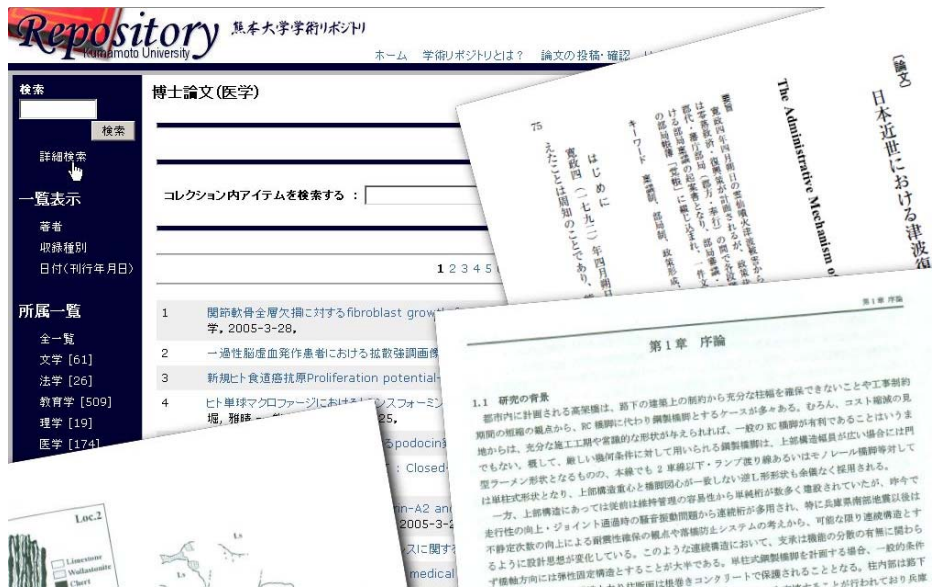
本学もこのCSI事業に採択されて、他の18大学とともに事業委託を受けました。

これにより、さっそくりポジトリシステムの構

築を開始し、全国でも6番目に公開することができました。

初期データとして紀要論文552件、博士論文215件、合計767件の論文を掲載しました。

平成18年10月現在、このCSI事業による学術リポジトリ構築のホームページには国内20機関が、試験運用も含めて登録されています。



平成18年度はこのCSI事業でのリポジトリ構築事業が拡大され、57大学にリポジトリ構築と充実の事業が委託されています。

本学も構築した学術リポジトリをさらに充実発展させることとして、引き続き事業委託されています。この事業委託は平成19年度まで継続される予定です。

学術審議会の答申においても、平成18年度3月23日の「科学技術・学術文化会学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会学術情報基盤作業部

会」で報告された『学術情報基盤としてのコンピュータ及びネットワークの今後の整備の在り方について』では以下のように学術リポジトリの重要性和有効性が記述されています。

・『機関リポジトリ』への取組みが、教育研究活動を一層推進し、大学からの情報発信を強化するための方法として、世界的な規模で進みつつある。」

・「大学からの情報発信力の強化や、大学の社会に対する説明責任の履行の観点から、またオープンアクセスへの対応という観点からも、有効な手法であると考えられる。」

「リポジトリ」という言葉を辞書で引きますと、「貯蔵庫」や「宝箱」と記述されています。

「熊本大学学術リポジトリ」は、本学の学術成果を収録し公開するための箱を今、準備できたところです。

これから、本学の研究者の方々にご理解とご協力をいただいて、この箱に本学で生産される多くの学術生産物を登録、投稿いただくことをお願いします。

そうして、この「熊本大学学術リポジトリ」が文字どおり学術成果という貴重な宝石がたくさん詰まった宝箱として成長することを願っています。

URL:<http://reposit.lib.kumamoto-u.ac.jp>

たかき ていじ  
図書課係長／電子情報担当

## 放送大学と合同の 特別講演会



附属図書館と放送大学熊本学習センター合築棟の完成を記念して9月24日(日)、講師に北野 隆名誉教授と稲葉 継陽助教授をお迎えし、「中世の阿蘇は…！」をテーマに合同特別講演会を開催しました。100名を越える参加者は皆、熱心に聴き入っていました。

## ふたつの中学校から ナイストライ

市内の中学生による職場体験学習に今年も協力しました。9月12日(火)から14日(木)までの3日間、桜山中学校と帯山中学校からそれぞれ男子2名が来館し、図書館のいろいろな仕事を楽しく体験して行きました。



特集：学術リポジトリって何だ？

# 研究成果を世界へ

学術リポジトリと同じく、熊本大学における最新の研究成果を世界に発信するためのアプローチがさまざまなカタチで展開されています。今回はその中から、つい最近開催されたばかりの「熊本大学韓国フォーラム2006」について、図書館から参加した大倉係員が報告します。

## 熊本大学韓国フォーラム2006に参加して

大倉 桂

2006年9月26・27日に韓国の科学技術都市・テジョン大田広域市で開催された「熊本大学韓国フォーラム2006」に事務スタッフとして参加いたしました。

今回の海外フォーラムは、昨年中国で開催され

た「熊本大学上海フォーラム2005」に引き続き、国際間での産学官の連携、大学間の交流、海外からの留学生の確保、熊本大学の実力をアピールすることなどを目的として開催されました。

熊本大学と交流協定を持つ韓国の10大学、韓国

中小企業庁、及び大田広域市が協力し、研究者、学生、企業関係者等、日韓併せて450人を超える参加者が集まりました。

大田広域市は、ソウルと釜山を結ぶちょうど中央に位置し、近年、日本のつくば市のように学術と産業を繋ぐ研究学園都市として発展している人口150万人の中堅都市です。熊本大学の協定校である韓国科学技術院 (KAIST)・ベジュー培材大学校・ハンナム韓南大学校の所在地でもあります。

26日の午前は、崎元達郎学長による「熊本大学の現







状と将来」と題する講演に始まり、培材大学、韓国科学技術院、東亜大学から総長や代表による基調講演が行われました。

また午後には、熊本大学の秋山秀典教授、河村能人教授、山村研

一教授、小畑弘己助教授、ソウル大学の李榮純教授他、工学とバイオテクノロジーを中心とした研究講演がありました。

翌27日の午前は、日韓の5人の学生による研究発表があり、その後の交流会では、日本と韓国双方の学生から大学生活や地域の様子について発表した後、グループディスカッションが行われました。

午後は、「大田—熊本国際産学官シンポジウム2006」と題した、熊大とかかわりのある県関係企業や韓国の科学技術を担う企業による計11件の、最新の研究成果発表会がありました。この他に、150件の研究発表・活動紹介パネルの展示もありました。

私は、以前同じ学術研究協力部に属していた(注)国際課・研究支援課・社会連携課の方々と協力してフォーラム運営にあたりました。

私に与えられた主な仕事はタイムキーパーでした。仕事の性質上、必然的にすべての講演を聞くこととなり、熊本大学の最先端の研究、熊本大学発のベンチャー企業、共同研究が行われている企業などについて知ることができてよかったと考えています。

熊本大学で行われている世界的な研究を海外へむけて発信し、確固たる評価を得ていくことは、とても重要なことです。

今回はじめて、海外フォーラムの運営という形

で関わることができましたので、この経験を活かし、今後は「熊本大学学術リポジトリ」の運用を通して、熊本大学の研究成果を世界へ発信していくことを一つの目標に、業務に専念したいと思います。

おおくら けい  
医学系分館担当

注：平成18年7月に附属図書館は図書課のみの一課となり、情報企画課と共に学術情報総主幹の下に置かれた。

## 文化財の修復と保存

熊本県大学図書館協議会主催の実務者研修会が、9月11日(月)に本学くすの木会館で開催されました。国宝級文化財修復の専門家である鈴木 裕氏を講師に迎え、『阿蘇家文書』をはじめとするさまざまな文化財修復事業の歴史と現状について講演していただきました。



## 阿蘇家文書修復完成記念

# 阿蘇の文化遺産展を終えて

稲葉 継陽

10月22日、熊本県立美術館で開催された「阿蘇の文化遺産展」が、約一ヶ月半の会期を終えた。

会期中の入場者は6,114名、展覧会のために準備した「図録」は800部ちかくを売り上げ、3回開催した連続講演はいずれも盛会であった。



北条時政阿蘇大宮司職補任状

また、10月14日から16日まで本学文学部棟などで開催した「日本古文書学会」の大会には全国の歴史学者や市民が約150名参加し、本展覧会に関連する講演や研究報告も行われ、参加者は16日に展覧会を見学し、大きな反響が得られた。

本学と県立美術館との共同作業で実現したこの展覧会を振り返るとともに、わが国の代表的な中世・近世文書群を管理している熊本大学、附属図書館、そして研究スタッフらが今後とるべき方向性について展望してみよう。

文化財保護法には、重要文化財の修理完了に際しての国民への公開義務が規定されている。

重文指定いらい17年の歳月をかけた『阿蘇家文

書』の修復完成によって、所蔵者の熊本大学には同文書の公開義務が生じたが、私どもはこの機会をひらかれた展示施設で同文書をひろく市民に公開するチャンスと捉え、県立美術館学芸スタッフとの内々の相談を経て、2005年夏から準備を開始した。

それ以後、全34巻に及ぶ『阿蘇家文書』のどの部分を展示するかを検討して展覧会の骨格を仕立て、それを美術館の展示スペースに当てはめて展示プランを具体化するとともに、「図録」の内容を検討して文書・展示品の写真撮影と原稿執筆・編集を行うという一連の作業が、本学スタッフと美術館スタッフとの共同作業によって進められた。

さらに、本学と美術館のスタッフのほかにも地元マスコミや阿蘇市町村会が加わった「阿蘇家文書修復完成記念展実行委員会」が発足し、予算の枠組みや広報態勢が整備され、9月8日のテープカットにこぎつけた。

本展覧会は、『阿蘇家文書』全点のカラー写真が掲載された「図録」や、連続講演の内容（講演内容は記録冊子の形態で共有される予定である）とともに、大きな財産を生んだ。それは、中世古文書の展覧会に6,000名を超える人々が足を運んだという“事実”である。

古文書は和紙に墨で文字を書き込んだ書類であるから、美術館での展示に適しているとはいえない。

私たちは準備の最終段階まで、いったいどれだけの市民がこの展覧会に訪れるか、不安を抱いていた。

不安を吹き飛ばす結果が得られた背景には、キャプション等に工夫を凝らして理解しやすい展示を心がけたことや、テレビや新聞紙上での広報が比較的活発になされたことがあった。しかし最も重要なのは、この展覧会が「古文書」という文化資源に対する市民的関心の高さを証明したことであろう。

入館者の閲覧時間は比較的長く、展示ケースの前で古文書の内容を追ひ、また文書のたたずまいを眺め楽しむ多くの市民の姿を目にすることができた。

本学附属図書館には、『阿蘇家文書』と『永青文庫細川家文書』という、わが国を代表する中世・近世文書群が架蔵されている。

「東光原」45号にも記したように、このような文書群をそれらが歴史的に形成された現地でもって所蔵・管理している機関は、全国でもごく限られている。

本展覧会が証明したように、これら文書群への市民的関心は高く、それはみずからの地域の歴史を知りたいという知的欲求に支えられていることは明らかである。

本学及び附属図書館には、今後とも学外の様々な組織と共同して、これら文化資源に市民の眼差しを当てる機会を設けることが求められるであろう。

しかし忘れてならないのは、文書群の市民への学術的提供は、これら文書群についての本学スタッフによる日常的研究活動が継続されることによつてのみ可能となるということである。

しかもそれは文書一通ごとの解釈と歴史情報の抽出、その蓄積といった、極めて基礎的で長期継続的な研究過程である。



これら地道な基礎研究が継続されうる条件・環境を整備し、基礎研究に日常的に従事するスタッフを適切に配置し処遇する仕組みの早急な確立が本学に求められている。

それなしには、文書群の所蔵・管理機関としての本学及び附属図書館が地域社会や市民から求められる役割を果たし続けてゆくことは、困難だと言わざるをえない。

以上のように、本展覧会が証明した古文書史料群への市民的関心の高さは、本学及び附属図書館の文書群管理機関としての積極的な活動の継続必要性と、それを実現するための大きな課題とをクローズアップさせたように思う。

いなば つぐはる  
社会文化科学研究科助教授

### 表紙の言葉

今号の表紙写真は「阿蘇の文化遺産展」図録からの抜粋です。

『阿蘇家文書』には近世史料も含まれています。

## 人事異動 (平成18年7～10月)

- 昇任 (平成18年7月1日付)  
学術情報総主幹  
松藤 典生 (学術研究協力部学術情報課長)
- 異動 (平成18年7月1日付)  
医学部附属病院事務部経営・管理課  
吉富 寛明 (〃学術情報課総務係)
- 異動 (平成18年7月1日付)  
図書課長  
柿本 義行 (〃図書館サービス課長)  
図書課副課長  
宮田 達也 (医学・薬学等事務部企画課経営企画室長)

## 日誌 (平成18年7～10月)

- 7/1 熊本大学事務組織改編
- 7/6 熊本県図書館連絡協議会理事会 (熊本県立図書館)
- 7/8 熊本市インターライブラリー親善スポーツ大会 (砂取小学校)
- 7/11 第3回附属図書館運営委員会
- 7/12 平成18年度委託事業説明会 (NII)
- 7/22 九州地区国立大学附属図書館ソフトボール大会 (大分大学)
- 8/3 第3回医学系分館運営委員会
- 8/8 熊本大学オープンキャンパスデー
- 8/14-15 熊本大学夏季一斉休業
- 8/21-25 書架等移設作業に伴う臨時休館
- 9/4 第1回熊本県高等教育コンソーシアム図書館部会 (九州東海大学)
- 9/6-8 地域目録講習会 (琉球大学)
- 9/8-10/22 阿蘇家文書修復完成記念「阿蘇の文化遺産展」(熊本県立美術館)
- 9/11 熊本県大学図書館協議会実務者研修会 (熊本大学)
- 9/12-14 熊本市立中学校ナイストライ
- 9/23 第1回「阿蘇の文化遺産展」土曜連続セミナー (熊本県立美術館)
- 9/24 合同特別講演会 (放送大学)
- 9/26-27 熊本大学韓国フォーラム2006 (韓国)
- 9/30 南棟地階書架設置工事完了  
第2回「阿蘇の文化遺産展」土曜連続セミナー (熊本県立美術館)
- 10/3-6 リプレース業務説明会
- 10/5 第4回附属図書館運営委員会  
第2回附属図書館専門委員会
- 10/7 第3回「阿蘇の文化遺産展」土曜連続セミナー (熊本県立美術館)
- 10/11 ガイダンス・授業支援
- 10/12-13 基礎セミナーガイダンス「図書館活用法」
- 10/13 第54回九州地区医学図書館協議会総会 (長崎市)
- 10/16 第2回熊本県高等教育コンソーシアム図書館部会 (九州東海大学)
- 10/16-17 九州地区国立大学図書館協会実務者連絡会議 (鹿児島県)

---

東光原：熊本大学附属図書館報  
第46号 平成18年11月刊

発行 熊本大学附属図書館  
〒860-8555 熊本市黒髪2丁目40番1号  
Tel. 096(342)2273 Fax. 096(342)2210  
編集 浦田博臣 杉本孝之 笠 彩子  
URL <http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/tokogen/>

---